

と稱する船岡屋があつて、小三郎の後胤だといひ、金澤の町人堂後屋三郎右衛門もその支族であると記する。聞見雜錄に、天正十年石動山合戦の事を記して、ヘイ(平)の加賀守、三宅小三郎二人は敗れて越中に脱走したが、神保氏張に捕へられ、柴田勝家に送られて切腹したとするが、誤らしい。

ミヤケラン 三宅蘭 通稱蘭一、字は國香、芳溪と號した。蘭はその諱である。考名は壯健齋、越中より出で、金澤に移り、醫を以て本多氏に仕へた。蘭はその三子で、亦本多氏の醫員となり、祿七十石を受けた。嘉永五年十二月二十日六十歳を以て歿。

ミヤコ 都 鳳至郡甲内の小字。

ミヤコノテプリ 都の手振 一冊。淺加久敬著。京都往來の紀行で、詩歌も載せてある。

ミヤコノハナメグリ 都の花めぐり 一冊。外題に立圃と角書がある。鳳至郡曾良の俳人岸芷編。文化五年京菊屋太兵衛板。岸芷所藏立圃の筆に成る『都の花巡り』の句を巻頭に載せ、古人の句をも輯録し、追加には蒼虬以下多數の作と、岸芷・龍石兩吟の附合があり、享利三年亥中夏也足軒岸芷とした著者の序文を添へる。

ミヤコノフユ 都の冬 二冊。小松の俳人北海坊佛仙編。天明五年京橋屋治兵衛板。几童土朗等を初め佛仙の一座した附合があり、安永三年佛仙が麥水と張行した歌仙もある。周峯(鶴嶺)の序及び自序を添へ、跋は夜半亭几童。

ミヤコバ 宮古場 鳳至郡橋比庄に屬する部落。

ミヤコモドリ 都戻 江沼郡八日市にある

地名。茂徳紀聞に、八日市の往還に石地藏のある所を都戻といふ。西行が西住と共に行脚の際、こゝで別れて西行は都に歸つたから、この名があると記される。是は九谷附近の西住の地名に伴ふ傳説の餘波であらう。江沼志稿には、八日市と動橋との間に在る小石橋を都戻橋といふとある。

ミヤサカ 宮坂 河北郡井上庄に屬する部落。呂名はもと黒津舟地内に在つた小濱神社の前の傾斜地にあるに因る。或は御前坂が御宮坂となり、遂に宮坂に轉じたともいふ。天正十一年四月羽柴秀吉の制札に、『おまへさか』とあり、元祿十四年の郷村名義抄には御宮坂村とする。

ミヤザキ 宮崎 珠洲郡白丸の東に突出する岬角である。

ミヤザキカンチ 宮崎寒雑 ↓ミヤザキヒコクローウ 宮崎彦九郎。

ミヤザキシゲユキ 宮崎重之 通稱藏人。父大貳は柴田勝家又は村上頼勝の臣で、後前田利長之を招いたが應ぜず、天正十二年子重之をして仕へしめた。重之祿八百石、御使番として大坂の役に従ひ、次いで足輕頭に任じ、千二百石に進み、寛永八年歿。子孫藩に世襲する。

ミヤザキトヨザエモン 宮崎豊左衛門 初名山内豊太郎。前田利長に従ひ、八王子の役に鐵傷を負ひ、宮崎藏人からその苗字を與へられた。後横山長知に仕へ、大聖寺の役に鐵傷九に一番乗して鐵傷二所を受け、知行百石を加へられて二百五十石となり、次いで大坂兩役にも従つた。

ミヤザキバナ 宮崎鼻 鹿島郡能

登島なる須賀部落の東南に在る岬。單に宮崎ともいひ、又松崎といふこともある。

ミヤザキヒコクローウ 宮崎彦九郎 初代彦九郎諱は義綱。能登中居の鎧物師で、天正十年前田利家に召されて七尾に移り、次いで金澤に轉じ、明暦三年歿。二代彦九郎義一、一岬庵寒雑と號し、繩子の製造に名を得、また梵鐘を鑄たことも多い。後剃髮して徳翁といひ、八十二歳を以て正徳二年二月歿。三代彦九郎義治、初名を彦三郎といひ、享保八年歿。四代彦九郎尙義、その技祖父に譲らず、寶曆三年十一月歿。五代彦九郎尙中、後に寒雑の號を襲ぎ、技術優秀、世に錢屋寒雑と稱せられ、安永二年九月歿。六代彦九郎義二は安永四年八月歿し、七代彦九郎尙行は寛政十一年十一月歿し、八代彦九郎義光は享利三年七月歿した。九代は越中高岡の工人彦兵衛が養はれたもので、後に彦九郎尙幸といひ、安政四年五月歿した。十代彦九郎尙義、初名次吉、幼にして家を襲ぎ、文久三年京師名越氏に就いて業を習ひ、明治十二年その地に客死した。

ミヤザキヨシチカ 宮崎義比 諱は義比。初め通稱榮五郎。號は竹谷。もと竹内氏で、金澤の人。江戸に至り淺利又七郎に従つて一刀流の劍を學び、歸つて雄飛館及び經武館に教師となり、又前田利嗣の師となつた。廢藩の後島根縣の捕亡吏に任じ、石川縣の出仕に轉じ、明治二十年七月五日五十三歳を以て歿。

ミヤザキヨシツナ 宮崎義綱 ↓ミヤザキヒコクローウ 宮崎彦九郎。

ミヤジ 宮地 江沼郡北濱の中に屬する部落。古く神社のあつた地であらうが明らかでない。その神社を宮村岬部神社に當てる説は

誤で、矢張り宮地白山神社の前身であらう。茂徳紀聞に、この村の畑に七八尺四方の巨石があつて、眞言寺院の塔の礎石であると記するが、それを里人のジャウジャノカマと言つてゐるのは長者の釜の義なるべく、その圓孔が釜底に類してゐるからの名であらう。附近からは網狀紋を有する平瓦や、瓦當に複瓣六個の蓮花紋のある疏瓦なども出てゐる。この寺院とかの神社とは密接の關係があるものであらう。

ミヤジ 宮地 鹿島郡金丸内の小字。

ミヤジ 宮地 鳳至郡宮谷・魚地は、明治八年十月併合して宮地と稱することにした。

ミヤジシラヤマジンジャ 宮地白山神社 江沼郡宮地に鎮座するもので、中頃白山社と稱し、今は白山神社というて居る。式内等舊社記に、『宮地白山神社。宮地村鎮座。往古有數坊。舊社也。』とある。

ミヤシヨウトモカツ 宮庄友勝 ↓ミヤキトモカツ 宮井友勝。

ミヤジリ 宮尻 ↓シラヤマミヤジリ 白山宮尻。

ミヤダ 宮田 河北郡笠野郷に屬する部落。

ミヤダ 宮田 鳳至郡浦上の内の小字。

ミヤタケ 宮竹 能美郡山上郷に屬する部落。隣邑長瀬との境界にある瀧を宮瀧といふのが訛つて村名となつたといふ。

ミヤタケシン 宮竹新 能美郡山上郷に屬する部落。明治中に至つて中島と改めた。宮竹新の一部であるぐみの木島は、石川郡に飛地となつてゐる。

ミヤタケヤ 宮竹屋 金澤の舊家。もと能美郡宮竹村から出て金澤尾坂下に住し、旅人